

荒川区区政改革懇談会 提言報告会 会議録

【日時】平成18年2月5日（日）10:00～12:00

【場所】サンパール荒川 末広

議事次第

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 開会 | 4. グループ発表 |
| 2. 座長挨拶 | 5. 区長挨拶 |
| 3. 提言書提出 | 6. 閉会 |

1. 開会

事務局より開会宣言

初めに区の幹部出席者を紹介し、次に次第の説明を行った。

区の幹部出席者は以下の通り

西川太一郎 区長

大淵義明 収入役

鈴木尚志 総合企画部長

藤田満幸 経理部長

裸野和男 危機管理対策室長

三ツ木晴男 地域振興部長

佐藤安夫 産業経済部長

緒方清 環境清掃部長

細川えみ子 保健福祉部長

高橋郁美 保健所長

荒川達夫 都市整備部長

倉門彰 土木部長

友塚克美 教育委員会事務局次長

（司会）

後藤徹也 総合企画部企画担当課長

2. 座長挨拶

今日は区の最高責任者の区長を始め、各部の幹部の方々も揃って来て頂いております。荒川区区政改革懇談会は、昨年、荒川区の将来像についての検討を行うということで、自主的なご参加の元に集まりました。しかし、当初は会議の運営方法などもわからず、大変戸惑いもあったわけですが、年代別、職業別の6つのグループに分かれて、フリートーキングのような形で始まったのでございます。それから回数を重ねるにつれ、段々とまとまっ

てまいりました。

また 11 月に行った中間発表会の内容は、どのグループも良くまとまっており、すばらしい内容だったと思っております。本日はこの後、提言という形にまとめたものを各グループから発表をして頂き、その提言書を区長にお渡しすることになっています。

皆様からの提言が荒川区の基本構想を検討する際の参考に資すると思えます。いずれに致しましても、私たちは元々区政に関心持っていたのでしょうけれども、区政改革懇談会での議論を通して区政はこんなに幅広く地域住民の生活を左右しているのだ、といった色々なことがわかってきました。そこでどんなことがなされているか、ということも含めて初めて知った部分もあって大変良かったと思っています。

また、次年度につきましても、午後の時間帯にお話があるということを伺っておりますので、その時はまたよろしくお願ひしたいと思ひます。



3. 提言書提出

櫻井座長から西川区長へ提言書が手渡された。



4. グループ発表

【瑠璃グループ】

おはようございます。瑠璃グループの島田と申します。よろしくお願いいたします。早速ですが、発表に移らせて頂きます。ただ今、ご紹介頂きましたように、実は、トップバッターではなく、2 番目でしたが、急遽トップをやってくれと言われましたので、「頼まれたら嫌と言えない」、そういうキーワードが発表の中に入っ



ておりますが、それを私たちは早速実行に移させていただきます。

中間発表の時にお話したことを、もう少し贅肉をそぎ落とし、付け加えることは付け加えましたが、それほど目新しいところはないかと思います。まずはお手元にございます提言書を見ながら説明させて頂きたいと思います。瑠璃グループでは、荒川区について、良いところ、悪いところ、を検討してきました。その中で何を核にしていけば良いのか、良いところ、悪いところ、を要約すると、結局、荒川区はどうなっていったら良いのか。これについては考えていったところ、まるっきり新しいことをするのではなく、元々持っている荒川区の要素を突き詰めていこうということになり、ここにあります通り、「粋」というキーワードを設定しました。

この「粋」というキーワードについて、前回もご説明を申し上げましたが、提言書の大きな数字の3番にある「荒川区を変えるキーワード」を見て下さい。グループでは、コミュニティや住みやすさの源を考えるうち、「粋（イキ）」という言葉にたどり着きました。

「粋（イキ）」という言葉は辞書によると「気持ちや身なりがさっぱりとあかぬけしていて、色気がある。人情の表裏に通じる。」の意味となっています。さらに、行き過ぎると気障、粋でなくなると野暮になると言われます。元々、荒川区にはこうした精神が根付いている。地味だけどころりと光るところがある。肩で風は切っていないが、頼まれたら嫌と言えない。もし住み働く人の認識や心のルールが変われば、街の活力が変わってくるのではないか。それなら荒川区はこの「粋」の魅力でいこう。ということで、グループは一致いたしました。

これに沿って、いろいろ提言をしていけたらということで、話を進めて参りました。4番、「イキ！なあらかわプラン」ということで、先程申しました、従来の「粋」以外に、まとめてみました。5つの漢字に当てはめてみました。まず、地域の「域」です。防犯・防災について、「地域のつながりで安心して暮らす」。それから、生きるというところの「生」、生活・福祉・環境というところで「人の心に触れて生活する」。次は、活力の「活」でイキと読みます。これについては産業、「知恵と技を活かす」。また、「憩」いという字を当てて、イキと読みます。芸能、文化、余暇、「憩いの場所としての荒川」。最後は、そのまま「粋」という言葉ですけれども、これについては、全体的なライフスタイルを表しており、「下町らしい粋なスタイルで暮らす」。そういうことをキーワードに色々と考えて参りました。最後のスタイルというところですが、決してファッション、流行ではなくて、変わらない、普遍的なもの、そういった意味も込めて、スタイルという風に表しました。荒川区がずっと持ってきたもの、これからも変わらないでいてほしいものを、下町らしい粋なスタイルということで取りまとめました。それぞれの漢字につきまして、細かく、色々考えてみましたので、ここからは、同じグループの文村さんに説明させて頂きたいと思います。

瑠璃グループの文村です。今、島田さんからの発表がありましたが、本来は、基本構想をつくるための材料を提言する形だと思っていますので、島田さんの発表の中でちょっと抜けていた部分である課題について、話したいと思います。これはそれぞれのグループの皆さんも分析したところかと思っています。このグループでは、確かに偏りがちな内容も扱っていますが、基本構想を作る上で取捨選択してもらおうということで、我々が興味あるところと、ここは言っておいた方が良いのではないかと、というところを以下でまとめております。

何かと偏っている部分もありますが、そこはご理解の上で、聞いて頂きたいと思います。まずは、地域の「域」ですが、主に防犯・防災分野を指しております。まず、出たのが JR 線のガード下のライトアップなど、危険を誘発する暗闇を無くし、明るさ環境の整備をするということ。夜に街を歩いていて、暗くて怖いと思う経験をしている方などもいらっしゃると思います。そういうことをなんとかするように、対策を立てたり、町内会でも街灯を建てて、暗さを無くすことも大切ですが、これは自分の居間を、おしゃれにライトアップすることなどからもできるのではないかと思います。

次は、祖父母世代が参加する子どもの交通・防犯面の安全の確保ということです。防犯上、何かあった際、駆け込める家を普及する。これは、昨今の子どもの問題です。安心の問題で、今、安全安心ステッカーというものを家の前に貼ってありますけど、わかりにくいなと思います。例えば、ここだったら安心だよ、とか、普段ここにはうるさいおじさんがいる、とか、そういうことを目安にしても良いのではないかなと思います。

次の項目では雨水を利用するシステムを導入し、かつ、親水公園などに利用して、子どもの遊び場をつくるということが書いてあります。墨田区では路地尊とか昔の井戸水を汲み上げるようなものを置き、雨水が循環している事を子どもが遊びながら教わるができるといったシステムがありますが、そういうものを工夫して、荒川区にもあれば良いのではないかと思います。日常的に使っている所は、いざ何かあったときでも、使いやすいと思いますので、日常的な物の中に、そういうものがあつたら良いのではないかと、ということです。他には荒川区おんぶ隊の仕組みの普及ということが書いてあります。これは荒川区おんぶ作戦とも言われているシステムで、町内会にあるのですが、そういうものが一人暮らしのお年寄りの方達のために、区民の中でもできることがあるのではないかと、ということです。ハードのものも含めた提案もそうですが、人と人との繋がりを重視していきたいというのが、このグループで重要な課題としてありました。

次に、生活の方の生（イキ）ですが、マンションやアパートの新しい住民を含めた町会の形成というのが書いてあります。これは荒川区だけの問題ではないと思います。町会のネットワーク、行政による一人暮らしのお年寄りの把握と声かけ活動などが挙げられます。これも人と人との繋がりでです。

荒川区の中にある首都大学東京荒川キャンパスでは、主に医療系福祉系の学科がありますが、それらを小学校、中学校、高校の授業の中に関連させたプログラムがあります。大学が地域に開いていくという形のものが、せっかくあるのだから生かしていこうということもあります。また、学校に良い先生を誘導できる仕組みを検討するとか、福祉体験広場や荒川自然公園、尾久の原公園といった大きい公園もございまして、現在でも学外学習の一部として使われている所もありますから、もっと積極的に、そういうものを取り入れて、子どものうちからやって行けば、大人になってもそういう体験は生きてくるといいますので良いのではないかと、ということです。他には、より子育ての環境を充実させるために、子育て支援所とか子どもの遊び場、託児、宅老所の増設というのも、まだまだ課題のような気がします。昨今、話題にもなっていますけれども、寺とか銭湯とかをそこでデイサービスができる場にして生まれ変わらせようとか、何らかの支援策があれば、できるような気がします。他にも商店街

の空き店舗等を活用した小規模多機能な民間資本のデイケアホームの設置ですとか、交通のバリアに関して、住民の投票等により早期改善する場所を決めるといったことや、世代別区報の発行などもあげられますが、こちらは、既に実施されているものもあります。

次のページは産業に関しての提言です。区内には優秀な技能をもった職人さんなどが数多くいらっしゃいます。そこで、職人さんのためにもなり、その職人さんに教えを請いたいといった若者のためにもなるものを、学校という形で提供してみてもどうかということで荒川バウハウスというのが出ています。バウハウスというのはドイツで、芸術学校で伝統的な職人の技術と芸術的なセンスとを融合させた新しい材料をつくる運動がありましたが、その中で生まれてきたものです。たまたまマイスターという言葉がドイツ語なので、ドイツの方のバウハウスというシステムをここに持ってきたらどうかといったことから出てきたアイデアです。今、TASK プロジェクトがありまして、そういうプロジェクトの中でデザインを作ろうとしていますけれども、それを一つの学校とすれば後継者の育成にもなりますし、その運営がうまくいけば、そのお金とか人の交流が促進されるのではないかとということも書かれています。ただ、箱物だけをつくれれば良いというものではなく、その一環として、例えば、アトリエ化計画町工場の部分を、職人にデザイナーをつけて、コラボレーションにより新しい製品をつくるなど、学校と工場が融合して、荒川区のひとつの核となって、近隣区を巻き込みながらやっていくという形はいかがでしょうか。次に教育関係ですが、ここには、粋な商慣習を学ぶ社会人向け研修会とか商店等へのインターン授業、実験店舗、支援企業や個人からの融資システムをつくる、といったことが書かれています。区内には専門書の大きい書店もありませんので、荒川区内につくって、本を読む文化を浸透させていけば、荒川区に足りない工夫する力やPRする力が出てくるのではないかとということです。

次の憩うの憩（イキ）ですが、近隣区との連携で芸能・伝統文化などを合わせた観光ルートの開発というのが書かれています。例えば、谷中七福神巡りがあり、そういったものを、荒川区全体にもっていくとか、落語講座も定期的にやられている所もありますので、引き続き継続して、広げ、文化として成り立たせていけば良いのではないかと。テレビドラマの撮影場所になっているスポットも結構あるので、それをPRしたらどうか。あらかわ遊園という区が誇るアミューズメント施設がありますので、都電駅と遊園の一方通行だけではなくて、回遊性をメインとして広げていく、例えば、下町グルメストリートといったものが考えられます。次に第二東京たてももの園の創設と書いてありますが、文化財級な建物ではないのだけど、なにか群としてやると魅力があるようなものを作ったり、大正時代の旧レンガ工場の塀もありますので、そういった所と結びつけて、全体として考えてみたらどうか、という提案があります。南千住の方から北千住の方まで、現代の平成のまちづくりから江戸時代のまちづくりを一本の日光街道沿いに集結させて、ストーリーを組み立てていくということも面白いのではないかと、こういうものが出来れば、区内の意識も変わってくるのではないかと、ということも書いています。

次の粋なライフスタイルの部分は、主に日暮里地域のことを言っていますが、日暮里に繊維問屋街がありますので、個人的に裁縫したいがミシンがない人や、子どもの入学・入園準備をひかえた父母を対象にした裁縫教室などを開催したり、和装で売りを出したりなど、そ

ういったことができて良いのではないかとということが書かれています。元々からの、江戸時代の粋なスタイルをもう一回起こしても良いのではないかと。地域が頑張らないと発展性は無い訳ですから、もっと色々な要素を引きつけ、考えるために、服飾系、美容・理容系の専門学校を誘致して、もっと活性化させるとか、SOHO 事業をここで展開する人に対して、もっと融資したりとか、人の交流を進めたりとかの事業は必要ではないのかといったことも書かれています。

そういったものは、「イキな！荒川区実現アイディア」という形で、複合的に連鎖していけば、荒川区ってこんな所があるのだなと、区内にも区外にも良さがわかって頂けるのではないかと思います。

このグループでは、提言として、PR という面を強調したいということになりました。今、色々と PR をやられていますけど、もっと積極的にやられたらどうかということはこのグループでは提言します。以上でございます。ありがとうございました。

【真紅グループ】

真紅グループの中城です。では、真紅グループの発表をさせていただきます。まずは、荒川区の目指すべき将来像ですが、荒川区のこれからを考えるにあたっては、今の荒川だけを見てもしょうがないと思います。将来、時間軸で 50 年後、100 年後、それから、もっと攻撃的な観点から荒川を見て、未来を構築していかなければならないと思います。要するに、未来の首都圏の中の「あらかわ」、未来の日本の中の「あらかわ」、未来のアジアの中の「あらかわ」、未来の世界の中の「あらかわ」というのを考えていく必要があると思います。その中で考えて、未来に向けて、どんな荒川をつくっていくかという事を考えていく必要があると思われます。かっこよく言うと、Think globally, Act locally。地球規模で考え、地域で行動するということだと思います。そのための柱として 3 本、抽象化して考えると、柱は 3 本になるだろうということになりました。行って良し、住んで良し、仲良し。この 3 本柱でやっていけば、うまくいくのではないのでしょうか。



次のページになりますが、中間発表の時には 5 本の柱に、3 本柱以外の残り、共存や防災・防犯に関しては、ハード面としては、都市基盤、再開発、観光開発であり、ソフト面としては、コミュニティであります。それぞれをサンドイッチすることによって、解決することができるのではないかと考えています。荒川区の広域的な立地ポテンシャルを最大限に活かすとともに、再開発をまちづくりの契機として捉え、来街環境、居住環境の整備を総合的・計画的に進めることが重要であります。様々な取り組みを、多様な主体が協力して展開していくために、荒川ならではのコミュニティの維持と充実を図っていく必要があります。

現状分析に入りますが、観光開発については、文化資源はありますが、知られていないので、これから再開発が進むと思いますが、それを契機として、トータルの魅力あるまちづ

くりや人が来たくなるまちづくりをしていくことが必要だと思います。

次に、立地ポテンシャルですけれど、東京とか新宿とか浅草とか、20分くらいで行けます。電車も、沢山、通っています。空港でも、つくばでも、とても楽に行けます。通勤とかで都心に近いベッドタウンとして、人を増やすことは充分考えられると思います。立地ポテンシャルを活かして、再開発を進めていくべきだと思います。

都市基盤としては、大規模開発、汐入地区などは、非常にきれいに出来上がっていますが、やっていない所はごみごみしているなという印象で、それこそ、火事とかが起これば、火がすぐ燃え広がりそうだなという状況になっていると思います。あと、自転車が走りづらいということもあります。表通りとかを走っていると、がたがたしてしまっ、車道に行くと、路駐があり、車が、びゅっと、走りさっていきます。このように、自転車が走りづらいので、やはり整備が必要だと思います。

少し話をしましたが、木造住宅が密集している所が多いので、災害に備えて地域を整備していく必要もあるし、犯罪が凶悪化している傾向があったり、犯罪そのものが増えていることに対して、コミュニティや自治組織がやっていかなければいけない所があると思います。しかし、コミュニティそのものが弱体化しているという話があります。コミュニティに関しては、まだまだ荒川区にコミュニティは残っているのですが、どんどん弱体化していることはまちがいないと思います。

それでは、次のページ、分野別のまちづくりの方向ですが、行ってみたいと思えるようなまち、観光開発、アイデンティティ、都市ブランドについては、荒川区の売りとなる、よりインパクトの高い特色・特徴づくりに向けて、各種歴史文化資源などの活用を図るとともに、対外的なPRもどんどんやる必要があると思います。具体的には、観光基点の形成です。日暮里を一大観光基点として、案内所を設置したり、パンフレット配布をします。どんな言語でも対応できるようにして、外国人の方々にいらっしゃいと言えるようなものを設置する、スカイライナーで来た人を降ろす、通過点にさせない作戦を立てた方が良いと思います。町屋あたりでパンフレットを配布する。パンフレットに関してですが、区内の鉄道・地下鉄全駅などに置いておくと同時に、区外の上野駅や北千住駅、成田空港にパンフレットを置いたり、特に、成田空港にパンフレットを置くことによって、それを見て、荒川に行ってみようかなという気持ちになる人が増えたら、それはラッキーだと思います。そういう作戦もあると思います。具体的に、観光資源についてはここに書いた通りです。もんじゃ屋などの下町文化が、荒川区にはあり、色々な下町文化がごろごろしています。月島だけにおいしい思いをさせないぞ、荒川区でも儲けさせて頂くぞ、ということです。東アジア文化については、三河島には立派なコリアンタウンがあるので、大久保だけに良い思いをさせておかないぞ、うちでもしっかり儲けさせて頂くぞ、ということで良いと思います。歴史文化も解剖学の発祥の地など、色々あります。これも上野だけに良い思いをさせない、うちでも儲けさせてもらいます。ある程度の産業の橋渡しとして、観光産業は良いと思います。

それから、住んでみたいと思えるようなまち、都市基盤・再開発についてですが、住宅密集地域の再整備には、地域住民の合意形成を図りつつ、取り組んでいく必要がある。それから、都心至近のベッドタウンとして、新たな居住者を呼びこむとともに、従来のまちの雰囲気

気やイメージを残した整備や、大規模開発ゾーンと周辺ゾーンとのメリハリや調和に配慮したまちづくりが必要である。要するに、民間企業にバラバラとマンションを建てさせない。もっときれいに、計画的につくっていく必要があります。地域住民との合意が必要であり、勝手に区だけでやらない。皆で話し合って、これが一番良いという所を、計画を立てて、計画的に実行していく必要があると思います。民間企業の無計画は許さないというやり方で良いと思います。自転車の空間をきちんと整備して、人とか自転車が行き来しやすいようにする。人口密度が高いので、車で移動という感じではないと思いますが、徒歩や自転車、公共交通での動きやすさを追求しつつ、車も渋滞にならない程度の作戦を立てたら良いと思います。具体的には、まちづくりビジョンをはっきり立案する。それに関しても、皆のコミュニケーションを図りつつ、きれいなまちづくりビジョンをつくっていく。道路網をきちんと再構築したり、生活道路を歩行者優先化したり、人車分離策をニュータウンとか再開発地域並にやっていく必要があります。ニュータウンなどに行くと、信号無しにどこまでも歩いていけます。車を気にせずに、気軽にふらっと歩けます。駅前とか、きれいに人と車と分離されている場合が多いので、そういう所を見本にしていけたら良いと思います。

あとは、自転車空間の確保。荒川区はまっ平らなので、自転車はとても便利だと思います。自転車を使いやすくするというのもやった方が良いと思います。ロードプライシングで車あまり入ってこないというのも一つのやり方だと思います。公園や緑などを配置したり、建蔽率を上げない、密集させない、息苦しさを軽減したりする。消防車が入れないといった問題もあると思いますので、道路を拡幅する、もちろん、省エネルギーや新エネルギーなどを積極的に導入する、その辺あたりまでを都市基盤におりこんでいくと良いと思います。

災害に強いまち、防災・防犯という意味では、強い街の実現に向け、ハード面、ソフト面の両方から責めていこうとする作戦で、監視カメラ設置だけではなく人の目による監視も盛り込みましょう。そのためには当然、コミュニティも形成していかなければならないので、それもきちんとしましょう。コミュニティに飛び込むにあたって、楽しめるものではないとどうだろうということで、楽しめるものにしましょう。人と常時触れ合っている中で、子どもと高齢者、障害者が日常的に交流できる場があると、教育の場にもなるので良いと思います。ソフト面で、きちんとやる上で、コミュニティが一番大切だと思います。

真紅グループの杉本です。以上のような個別の具体的なビジョンについての議論を踏まえて、私達真紅グループでは、そもそも荒川区の基本構想とは何か、また、基本構想とはどんな役割を果たしていくべきか、という点についても、議論致しましたので、その点についても発表したいと思います。基本構想が、具体的に果たしていく役割とは何かと考えますと、私達の班では主に3つの役割があるのではないかと、それは区長さんもおっしゃった言葉ですが、基本構想は区政の憲法、基本理念としての役割を果たすのがひとつあるだろうと思います。

また、その上で、個別の具体的なビジョンについても提言をしましたが、区政のビジョンあるいは戦略構想としての役割を果たしていく必要があります。また、荒川区の各事業計画とか各個別政策と言われるような各計画の課題設定であるとか、政策評価基準という役割も果たしていく必要があるのではないかとというのが、私達の基本構想に対する基本的な考え方

であります。また、提言書の 14 ページ以降をご覧いただきたいと思いますが、こうした基本構想の実現に向けて、どのような課題があるのかという点について、多少議論をしたのですが、その中で一番重要な問題点としてあげられたのが、今後の荒川区の区政、荒川区の問題点を考えるに当たって、区だけで物事を考えたり、区民だけで物事を考えていくのではなくて、区と区民が相互一緒になって対応して、課題を解決していくこと。なおかつ、区だけではなく、区民も責任をもって関与していくことが必要です。

それを一言で表すと、15 ページにあります、「協働」という言葉になります。それは、例えば 14 ページの四角の中に書いてあることですが、地域の安全の問題点を考えて見た場合、区だけではなく区民も、地域の学校や公園や子ども達が集まる場所、あるいは、一般の住民が行き交う場所での安全を守るためには、地域の安全に関与する必要があります。これは、地域の安全だけではなく、全ての問題点に関与することだと思います。その協働の実現に向けて、私たち真紅グループが考える 4 つの提案が 15 ページにあります。まず、荒川区の基本構想に向けて目標の明確化と区と区民の意識の共有化を図ることが必要であります。また区と区民あるいは事業者、あるいは区と区民、区民と事業者、色々な主体があると思いますが、荒川区の各主体が、相互にコミュニケーションができる場所、あるいは、機会というのをつくっていく必要があるのではないかと、ということを提言しております。ここは重要ですが、15 ページの 3 にありますが、区の基礎体力としてのコミュニティの充実を図っていく必要があるということが重要であろうと考えております。また、協働を単なる理想するのではなくて、具体的に、区と区民が関与していくために必要なのは、モデルプロジェクトだと思います。例えば、教育、地域の安全、学校、あるいは、社会福祉の問題点、そういった各個別の問題点について、モデルプロジェクトをつくって、区と区民が相互に対話をしながら、意思決定をしていく、そういうことを基本構想に盛り込んでいくことによって、区と区民のパートナーシップという問題点や、協働の推進ということに繋がっていくと考えております。あまり時間もございませんので、端的にまとめて申し上げたいと思います。

まず、16 ページをご覧頂きたいと思いますが、協働のツール及びプロセスということで、荒川区と区民が一緒になって、問題意識を持って、意識を共有し、荒川区民の行政への関心を拡大することが必要だと申しました。地域の安全、防災・防犯あるいは福祉、あらゆる問題点で、荒川区と区民の間で、相互に協力していくルールというものを作ってはどうか。例えば、地域の防犯活動に住民の参加を呼びかける、消防団や防災組織への参加を呼びかけるなど、そういう中で、区民が、地域の問題点に関心と責任を持って、荒川区の協働を推進していく必要があると思います。そして、地域の問題点について、区と区民が課題に向けて実践していくというのが、私達真紅グループの展望です。問題意識として、今後、荒川区の将来像をつくるにあたって、荒川区の資源の発掘と PR すべき点を活用して組み立てて、荒川区の良さを内外に PR していく必要があります。その上で情報発信についても、区と区民が、問題意識を持ち、情報発信する必要があるのだろうと考えております。以上真紅グループの発表とさせていただきます。

【紫苑グループ】

紫苑グループの櫻井です。前回の中間報告会の時には少し時間が延びてしまい、ご迷惑おかけしてしまいましたし、今回も多少時間がおしっているようですので、提言書の方はちょっと置いておきまして、提言書の概要版の方をご覧ください。その中で12ページから15ページまでが、私ども紫苑グループの内容になります。これについて発表して行きたいと思います。

私どもは、50から60歳代の自営の経営者から構成されているグループで、長年荒川区に住み慣れた経験や愛着心、そして豊富な人生経験をもとに、荒川区の現状や問題点、課題、対策案まで、できるだけ具体的に議論を重ねて参りました。

まず荒川区の取り組むべき課題として重要であるものを二つ挙げてあります。まず一つ目は、近年自治体を取りまく環境を踏まえ、当面の現実的な課題として財政基盤の強化・確立が挙げられます。これについての対応は、その下の黒丸のついたところの対応すべき課題の欄にあるとおり、財政基盤の強化を図るためには、歳入の増加（自主財源の確保）と歳出の抑制が不可欠であり、歳入を増やすためには、産業の再生やまちの活性化が不可欠である、とあります。そこで、次の13ページを見て頂きますと、産業再生とまちの活性化のための取り組み方針と対策案とありまして、左から取り組み方針、次に対策案、そして時期、という様に3つに分けてあります。

取り組みの方針として、まず荒川区ブランドの確立とあり、その対策案にブランド戦略機関の発足とあります。これはやはり、まず組織やグループを作ってから戦略を立てて行かなくてはならないということでもあります。またその他にもPR戦略の徹底などの対策案も挙げてあります。そして二番目の取り組み方針にある、回遊できるまちづくりというところでは、区外から人を呼び込むための仕掛けづくり、そして区外からの人を回遊させるための仕掛けづくりというような対策案を挙げました。他にも、現有施設の有効活用や、川や川辺を活用した回遊のあり方の検討というようなものもございます。そして三番目の方針、交通体系の整備というところでは、回遊を想定した交通網の再構築・体系化、また近隣区との連携という対策案があります。四番目の方針である産業の振興では、最優先の対策案として産業のネットワーク化、次に強みを活かした地場産業づくり、そして先端産業の誘致、というものがございます。

次に、前のページに戻っていただきまして、重要課題の二番目に少子高齢化への対応とあります。そこに、荒川区の少子高齢化の現象は23区の中でも顕著である。今後、少子高齢化がますます進展し、区財政や区民生活へ多大な影響を与えることが予想される、とあります。そこで、対応すべき課題の欄のチェックが付けられている二番目、三番目の項目をご覧ください。

一つ目に、高齢化社会へ対応するためには、高齢者が元気になり、活躍できるまちになる



ことが必要である。また、元気な高齢者が増えることは、区の歳出抑制にも貢献する。二つ目に、少子化に対応するためには、子どもを産めるまち、安心して育てられるまち、豊かな人材を育てられるまちとなるための教育環境の充実が重要である、とあります。これにつきまして、14 ページにあります、高齢者が元気になるまちづくりのための取り組み方針と対策案というところをご覧ください。ここも先程と同じように、左から取り組み方針、対策案、時期、という様に三つに分けてあります。

一つ目の取り組み方針として、高齢者の社会参加の促進とありますが、この対策案として高齢者が参加できるボランティア組織の構築や、高齢者雇用促進に向けた諸制度や基盤の充実などがあります。また、提言本書の方に詳しくありますが、行政や地域とタイアップしたシルバー人材センターの機能アップというような対策案も挙げられます。次に、二番目の方針である町会・コミュニティ機能の再構築に対する対策案として、町会を活用した行政業務のアウトソーシングの推進とあります。現在、行政委員のような様々な委員の方がいらっしゃいまして、それに準ずる、準行政委員というような方も大勢いらっしゃるのので、それらのネットワークが必要なのではないかと思えます。そして、行政機能の一部を分担させるといった意味合いでは、町会との連携などについて見直してみたらどうかと考えました。それから、防災・福祉等横断的に対応できる町会機能の確立というところでは、例えば、最近町会とマンション自治会との間のコミュニケーションがうまくとれていないなどといった問題があり、そういったコミュニケーションの育成が図られないとお互いがうまく関係をもてないと聞いております。こういったことについても、きちんと考えていかなくてはならないと思えます。

次に、教育環境充実のための取り組み方針と対策案についてですが、ここも取り組み方針、対策案、時期、という様に三つに分けてあります。まず学力向上、豊かな心の育成という取り組み方針に対し、特徴ある学校づくりといった対策案があります。そして次に、学校（校長）への経営的視点の導入とありますが、これは教育委員会の指示を待っているだけの校長では困るということで挙げてあります。二番目の方針に、教員資質の向上とあり、これに対して教員評価システムの導入や、教員採用基準・方法の見直しといった案を挙げております。最後の三番目には、地域教育・家庭教育の充実とあり、これに対しては、地域と一体となった教育システムの導入、そして家庭教育の見直しのための地域連携の推進、保護者への教育支援といった対策案を示してあります。

最後の 15 ページの方をご覧ください。今まで様々な分野についての提言を説明して参りましたが、これらを、単なる提案で終わるのでなく、具体的に実行できるようにするために、やはり、今後の行政と区民のあり方、意識改革などが重要であるということを考えました。それについて、ここに三つに括って説明してありますが、まず一つ目の項目の、区民に求められることについては、区民一人ひとりが、自分のことだけを考えるのではなく、公共についてもっとよく考える。そして、行政に対して要求ばかりでなく、自己責任や自己負担についても認識する。これは、国全体での規制緩和というものの反対側には自己責任というものが常に求められるわけであり、区においても同様のことが言えるわけでございます。それから、行政に無関心ではなく、積極的に関わり、自分たちのまちをつくる努力をする。こうい

った区民の姿勢がないと、行政がいくらがんばってもどうしようもないという結果になってしまいます。次に、隣の項目に行政に求められること、というものを挙げてあります。その一つ目に、目先だけの対応や前例主義を改め、柔軟な発想で区民の立場に立った対応を行う。次に、行政はコーディネート役に徹し、区民主体の施策をさらに展開する。そして、区民の声にもっと耳を傾け、区民のニーズと行政側の認識にズレがないか常に振り返る、とあります。そしてこれらの二つの項目に関わるものとして、下の所に、区民と行政とのあり方と仕組みという項目があります。最初に、まちの今後の目指すべき将来像や方向について、区民と行政とは認識を共有化しておく、とあります。そして次に、区が実施した施策等の成果や効果を明らかにし、それを区民と共有化し、次につなげる仕組みを構築するとあります。これは評価という意味合いです。最後に、行政が取り組むべきもの、区民が主体となって取り組むべきものの仕分けを行う、とあります。これらのことができれば、これまでの提案を実効的にすることができるのではないかと結論に至りました。発表は以上でございます。

【茜グループ】

こんにちは。茜グループの新井と申します。私どもの提言は概要版が16ページから始まるページになっており、提言書は、41ページから始まっております。

私ども茜グループは、提言書の最初の方に出ています通り、現在、あるいは過去に、区内で子育てしている、要するに、まだ、小さな子どもと関わっている者が、メインで構成されているグループです。前回の中



間発表会では世代ごとに区切って、例えば、子どもについての事柄、学生について、働いている世代という形で、中間発表の要旨を出ささせていただいたのですが、今回は、木に例えて、荒川区の将来像を考えてみようということで、世代ごとに切る形ではなく、分野ごとにまとめた形で作らせていただきました。主に、こんな形の荒川ができれば良いということで、木のイメージを、子育ての分野、コミュニティ・生涯学習、安心・安全、環境、学校教育、行政体制という形で、大まかに区分けをして、これまで考えてきました。

個別の話では、中間発表の時にも載っていた事柄と被るところもありますし、ちょっと特色的かなと思うところを、幾つか拾い上げながら、お話したいと思います。概要版に沿って、お話したほうがわかりやすいと思いますのでそうしていきたいと思います。

子育ての分野では、少子高齢化ということは、随分前から言われていますし、どこの市町村でも、少子化対策、高齢化対策を行われていると思います。もちろん、それは大切だと認識は私どもも持っております。どこの市町村か忘れてしまいましたが、ある市町村では、子どもが生まれる度に、出産一時金100万円あるいは200万円なんていう市町村もあると伺ったことがあります。本当に、お金ほしさに子どもを作る、ということではないですが、

実際、出産するのに、大変な費用もかかりますし、現状は高い教育費を考えて、3人欲しいところを2人で止めてしまうということもあると思います。かくいう私のところも、私は3人目を欲しいと思っていますが、家内の方は2人で良い、という状況だったりします。確かにお金もかかる点もあるので、出産一時金なんかも考えてみては良いのかなという感じが致しております。

教育の内容については、前回の中間発表でも話したことがメインになっています。荒川区は英語の学習特区ということで、英語学習を進めています。前回も触れましたが、残念なことに、公立学校の学力はちょっと見劣りがするのかなという点があったりします。前回も申し上げたのですが、荒川は、谷中の山を越えれば東京大学がひかえ、東京大学へ行くために勉強しているような開成中学があったり、考えてみると非常に文教的に意識が高い所だとは思うのです。ですが中で育っているこどもたちの学力はちょっと、というのはどういうものだろうかと考えました。むしろ、文部省の学習指導要綱が考えているような内容にとらわれず、むしろ高い、高学力特区というか、ハイレベルな学習をするなら荒川でできるぞ、というような、そんな形の学校を作っても良いのではないかな。もちろん財政が許せばということではありますが、千代田区でしたか、都から学校を買って、区立の中高一貫校を始めていたりしている。荒川もよそから買うということではなく、思い切って、大学の形式のように、キャンパスが分散していても良いから、区立の小学校、中学校、高校、できれば、区立の大学まで、理想的な大学まで作ってしまおうという、高い希望を持って、学力の非常に高い区を作っていくということも考えられて良いかと思っております。

次に、憧れる暮らし方のモデルを発信するまち、とタイトルをつけたのですが、なかなかこの辺が難しくて、我々としても決めかねるところでした。どこのグループでも、どこの市町村でも、コミュニティの崩壊とか、人間関係、人と人との繋がり、ということが問題視されております。永六輔さん風の言葉を使わせていただくと、人間という漢字、昔は「じんかん」と読んだそうですね。なぜ、人が人間でいられるかということ、人と人との距離感がわかるから、人の間という字を当てたというお話を、どこかで伺ったことがあります。もちろん、コミュニケーションということでの人間関係の距離感が分からない人、もっと具体的には、最近、電車や街中を歩いていても、人とすれ違うことがまともにできない。向こうから来ると、このまま行けばぶつかってしまうのに、平然とよけることもせずに歩いていくといった、まさに、物理的に人間の距離感すらわからない人たちが非常に多くなっているということが私たちの認識です。それをどうするか、具体的な方法は、なかなか難しくてわからないのですが、もう一度、人間をつくりなおす、人間をとりもどすということが、この荒川で暮らすことでできるようになったら良いかなということは、話し合いの度ごとにメンバーの中で出て参りました。具体的な方法は多々あると思うのですけれども、概要版にあげた中には、ボランティアというところがあります。ボランティアというと、若年者というか、子どもたちがお年寄りのためにというのが、よく考えられがちなボランティアのスタイルかと思います。ですが荒川では、今年は特に記録的な豪雪ということで、雪国の方では、雪下ろしやらで、既に、百何十人の死亡者がでています。そんな時に、テレビのブラウン管を通して、雪下ろしで汗をかいている人たちが、荒川の若者だったらとても素敵かなと思ったりしています。中

学生や高校生、もちろん大人でも良いのですが、これは全くメンバー共通の認識ではなく、私の個人的なネーミングなのですが、荒川区の「若者サンダーバード」と言ったような、どこかで何か、事があれば、荒川区に住んでいる若者たちは真っ先に駆けつけてくれる。あそこで雪下ろしが必要となったら、荒川の若者たちが汗をかいている姿が、ブラウン管を通して、全国に写っている。そんな若者たちが、荒川区で育ってくれたら、どんなに良いだろうかという話をしておりました。それから、若者、特に未成年者ですと、最近、未成年者の犯罪が非常に多くて、未成年者、どちらかというと、我々世代から見ると防犯あるいは取り締まりの対象として見がちであるのですが、逆に、若者たちを中心に、ガーディアンエンジェルの荒川版みたいなものを結成して、若者に、防犯に一役買って頂くといったことも考えられるのではないかとすることがありました。ガーディアンエンジェルスというのは、最初はニューヨークの若者たちが、ニューヨークの治安の悪さに業を煮やし、自ら立ち上がり、武器を携帯せずに、ボランティアでまちの警護にあたる、そういうグループだったのです。その中心メンバーに日本人の方がいらっしゃって、その方が日本にやってきて、歌舞伎町や六本木とかで、ベレー帽を被りながら率先している集団があるのですけれども、そういう荒川版とか、若者たちを防犯の対象としてではなく、防犯に一役買っていただく、その中心メンバーとして活躍できる、そんなボランティアを考えてみても良いのではないかなという気がいたしております。このアイディアが、実は、江戸時代の火消しだったのですけれども。火消しというと町の若衆で乱暴者が多かったのですが、逆に、彼らは、一丁、事があると、命がけで江戸の町を守るという、町の中では非常に誇り高い存在として、彼ら自身にも高い誇りと意識を持ちつつ、まちの発展に一役買っていたという時代が、この日本、特に江戸の匂いのするこの地域であった訳です。そういうものをもう一度、荒川からスタートしても良いのではないかと考えております。

安心・安全の分野では、もちろん今の防犯・防災の話ももちろんそうなのですが、同じく江戸時代からのヒントで、私の子どもが通っている通学路の途中にも、「こども 110 番」とかシールが貼ってあるのですが、実際に、こどもたちに何かあった時に、さあ飛び込んでいこうとなかなかできないのです。全然知らない人の家ですし、最近では、知らない人と話をするな、と親の方から言っている状況ですので。ならば、江戸時代の銭形平次の子分の八五郎だとか、伝七の子分だとかが、「親分、大変だ」と駆け込んできた番屋みたいなものを、実際の街の中で設置してしまう、沢山置いて、そこに、リタイアした方々ですとか、我々などが、交代で常に詰めているようなものがあったら良いのではないかと思います。何かあったら交番に行け、と言われても、交番も最近は留守が多く、用があったら電話しろと、窓口に電話が置いてあったりするだけの交番が多い。それではなくて、実際に、我々自身がここに住んでいる人々を、自分たちで守ろうという動きが必要なのではないでしょうか。番屋のようなものが点々と存在していれば、そこを通して、地域間でのコミュニケーションの場になるでしょうし、場合によっては、そこでおじいさん達が囲碁や、将棋をやっていてくださるだけでも、街中で、安心な雰囲気を作れるのではないかと考えております。

それから、行政の分野では、私どものグループは荒川区の行政体制ということで考えてみました。他の市区町村、私がかつて暮らしてきたような区などから比べまして、非常に気持

ちよくて、良い所だよというのが共通認識なのですが、ただ、それでも、何か用事がありますと、その件についてはこちらの担当、あの件についてはこちらの担当といったように、いわゆる、たらい回しということをしてられることがあります。私どもの提言の中で、区政コンシェルジュという言葉で表現していますが、区についての相談を何でも受けてくれるようなものがあったら良いのではないかと思います。コンシェルジュと言うと、ホテルですとか最近ではデパートですとか、そういう所に存在しているようなものです。よろず相談事引受人みたいなものなのですから、そういうものがあっても良いかと思いますし、区政について、何か区役所に用事があったら、駅前留学でおなじみのNOVAさんがやっているような、あんなモニターがひとつあるだけで、区民である我々の方が担当部署へ走り回るのではなくて、それを通して、各担当と繋がっていれば、一箇所に居たままで用事が足りる。そんなことだって簡単にできるのではないかと、思ったりしています。用事があるなら、区民の方が走り回れではなくて、用事がある区民のところへ区の方がもうちょっと積極的に集まってくる。そんなスタイルの区政もあって頂けると、区民としては非常にありがたいと考えております。

そして、環境ということであれば、これからは勿論エコなのですが、荒川の観光で売り出すという点もあるのかなという感じもします。エコというのであれば、私の個人的な持論ですが、昭和レトロで売り出すならば、1970年代から日本中をコンクリート漬けにしてきたこの政策を、この辺でやめて、路地裏が沢山残る荒川だったら良いのではないかと、思います。路地裏のコンクリートの舗装をもう一度剥がし、泥の道に直し、ちょうど、南千住にある、荒川ふるさと文化館内の路地裏の様子みたいなものを、もう一度、そこに戻し、子どもたちがそこでわいわいと遊びまわっている姿が、荒川では、まだ見られるなどということをやってみても良いのではないかと、思っております。もちろん、いろんな反対があるでしょう。ヒートアイランド対策一つとっても、舗装をはがすのが決定打なのだと、誰もが賛成してくださるのですが、いざやろうとすると、だれもが反対する政策なのです。でも、そういうことを荒川では本気でやるんだぞ、ということを示してくれることで、他の区市町村も追随してくてくれるところは必ず出てくるのではないかと、思います。それから、隅田川という良い川がありますが、環境というのであれば、あの辺に例えば風力発電の風車が回っている風景があったりすれば、荒川は本当にエコをやっている、というPRになるのではないかと、思っております。

元気ある産業で活気づくまちという点では、私どもグループのメンバーとして、ちょっと苦手な分野なので、どうしてもお話が薄めになってしまうのですが、他のグループの瑠璃グループでしょうか、中間発表の中に、荒川アカデミー構想という形で地図のような資料がついていたのがあったのですが、アカデミーという言葉になぞられるなら、瑠璃さんのキャッチフレーズの「イキ」という言葉にあえて、私が勝手につけてしまったのですが、教育の育、人を育てるの育を、無理やりイキと読ませて、教育分野の一部分、具体的には、西日暮里から谷中近辺ぐらいが良いでしょうか、そんな所に、現在は学習塾が沢山集まっているのですが、なんと、書店がないという不思議な学生街になっているのです。あのあたりをもう一度、教育の地域として活性化するというのも考えられるのではないかと、思っております。

す。

それから、きれいなまちというところにいきますと、私は9年前こちらの荒川区で暮らすようになったのですが、初めて来た時の第一印象として、ちょっと暗くて汚いという最初の印象がありました。ブローケンウィンドウエフェクト（Broken Window Effect）という言葉があるらしいのですが、簡単に言ってしまうと、東京ディズニーランドではなかなかゴミが捨てにくい。やっぱりきれいだからなのです。どこか象徴的な場所で良いと思うのですが、思い切って、沢山のお掃除する方を配置して、きれいな場所をつくってしまっただけでも荒川ではゴミを捨てられないぞ、という雰囲気を作りだしてしまうのもひとつの方法かと考えております。

ここに上がってくる前には、色々お話をしようと思っていたのですが、なかなか一段上がると忘れてしまうものです。そろそろまとめますが、大切なのは、どんな良い提言も総論は賛成なのです。それは良いことなのですから。ただ、実際、実行すると各論反対というふうになる。これは日本人だけではなくて、どこでもそうだと思うのですが、総論賛成、各論反対ではなく、総論賛成、各論もやり切る、ということを、本当にやっていくことが、まさに政治の力であり、本気であることを示すことだと思います。私たちがあげた提言、どんなことでも結構なのですが、とにかく、荒川は本気でやってみよう、ということを、日本全国に示してほしい。都知事の言葉ではないですが、東京が変わればではなくて、荒川が変われば、それこそ日本が変わるみたいなふうにしてほしいと思います。ちょっと出た釘は打たれてしまっていますが、思い切って突出してしまえば、皆もそちらの方向に、どどっとなびいてきます。

本気でやっている荒川区、これを日本中示していくことで、きっと多くの追随者が必ず出てくると思います。今もそうなのかわかりませんが、小学校6年生の国語の本の下巻の最後には「ゆずり葉」という詩が載っていることは、ずっと定番でした。子どもを育てて、思うのですけれども、我々、大人世代は、より良い荒川、より良い日本を、次の世代にゆずっていく。ゆずり葉というのは、葉が落ちると、次の世代の子に命をゆずるために葉が落ちる。そんな趣旨の詩だったかと思うのですが、そういう荒川を、是非、これから作り上げていきたいと思っています。

この区政改革懇談会に募集した一番の最初のきっかけは、荒川区に来て、初めて聞いた荒川区民の歌なのです。初めて、インターネットのモニターを通して、全部通して聞いてしまったら、涙が止まらなかったことがあるのです。とっても良い歌だと思います。そういう、本当に荒川区民の歌で歌われているような荒川区を、次世代の人たちに是非手渡して行ってあげたい。そういう区政づくりに今後も取り組んでいって頂きたい。それが子どもを持つ我々としての切なる願いです。以上、茜グループの発表を終わらせて頂きます。

【萌黄グループ】

皆様、こんにちは。萌黄グループの牛丸と申します。概要の19ページをお開けください。私たちのグループは今発表なさいましたグループとは違ひまして、子育てをとくくに終えてしまった、女性だけのメンバー、10人で構成されていまして、9回に渡り、常にフリーター

キングで会を進めて参りました。下にありますように、私たちの将来像として、私たちの4つの夢、「安全なまちづくり」、「生活環境の整備」、「こどもを育てやすいまちづくり」、「日本の玄関になる荒川区」、この4つを夢として話し合いました。

中間発表でこちらの方は申し上げましたが、その後、私たち主婦として、いや、ベテラン主婦として、主に安全で清潔な住み良いまちづくりについて、色々話し合っ参りましたことをご報告致します。



次のページをお開けください。まず、安全なまちづくりです。荒川区の道路は、とても狭くて、広くするような開発事業を実施してほしいという皆さんのお話がありました。先日、まだ一ヶ月経っていないのですが、私のすぐ近所に火災がありまして、消防自動車が参りました。消防自動車が途中まで入ったのですが、入った途端、右も左も動けないような状態で、立ち往生をしまいました。おばあさん一人で住んでいるお家だったのですが、だいぶ消火が遅れまして3軒燃えてしまいました。幸いにも怪我をなさった方などはおりませんでした。そのように道路が狭いものですから、消防自動車、消火活動が大変遅れるというような事態がございます。先週の新聞を読みましたら、荒川区では各世帯に火災報知器をつけて下さるような新聞が載っておりましたが、とても良いことだなと思っております。是非よろしくお願ひしたいと思ひます。

次に防災です。これは特に、毎回毎回、私たちのグループは話し合っ参りました。学校の授業の中で子どもたちの防災意識を高める教育を行ってほしい。アニメ方式でも良いのですが、防災だけでなく、防犯もそうだと思うのです。小さい時から、こういうことを植えて、日頃、訓練をしたりしていったら良いのではないかとことを話し合いました。例えば、6か条みたいなものを作って、いざという時の火の始末は大丈夫ですか、いざと言う時の逃げ道の確保は考えていますか、また、非常持ち出し袋を準備していますか、家族が離れ離れになった時の話し合いなどはお済みでしょうか、一時避難場所とか広域避難場所の確認などはされていますか、住まいの防災総点検はお済みですか、などという、これは例えですが、6か条というようなものを、これは3ヶ条でも、何ヶ条でも良いのですが、作って、常にどんな場所でも目に付くような、よく自転車のかごに貼ったりとか、ことあるごとにPRして、防災意識を高めていく必要があるのではないかとことを話し合いました。私の家は、夫婦2人に8キロの猫が1匹いまして、非常持ち出し袋というのは、普通、お水とか色々入れていると思いますが、私の家では、常に、私の枕元に、スニーカーとナップザック、その中には猫の缶詰を必ず入れて寝ております。そのような非常持ち出し袋を用意しております。きっと、皆さんもそういうものを作っておかなければいけないのだと思ひます。是非点検してほしいと思ひます。

また、提言の中に、防災に関しまして、色々、ペット用の避難場所なんかは、これは私

が言ったことなのですが、そういうことも検討してほしいといったことも書いてあります。どんどん荒川区に高層マンションが増えておりますが、そういう時の対策なんかは、荒川区としてどうしているのだろう。それも考えてほしい。また、協議会、これは行政はもちろんですが、消防・警察・学校・町会。それぞれが提携しあって、話し合いを細かく行なって頂きたい。あそこの集合場所は、どこの委員の先生が担当、どこの町会が担当というような感じに。すぐ近くの中学校なら中学校。当番のようにきちっと決めたものを設立してほしいなというような意見が出ました。

次に防犯です。荒川区には独特の近所のお付き合いがございますが、それをもっと深めたほうが良いのではないかと思います。空き巣の被害が大変増えております。私の家のすぐ近くでも、商店3軒、家の通り、千住街道、このすぐ脇ですが、この一年間の間に3件空き巣に入られました。そのようなことも、どんな風にすれば、空き巣に入られないか、考えていかなければいけないと思います。また私事なのですが、十数年前に空き巣に入られました。その時は、小さな商店をやっております、夏休み、お盆休みをとるために、丁度、表に「幾日から幾日までお休みをさせていただきます。よろしく願いたします。」わざわざ、ご丁寧に張り紙をして休みました。そうしましたところ、何時に入って、何時に帰ったかはわからないのですが、家へ着いて、鍵もちゃんとかかっておりましたし、引き出しなど何の乱れもありませんでしたので、気がつかないでいたのです。そうしましたら、ちょっとお客様が見えて、お釣り銭を出しましょうと思いましたが、お釣り銭が空、お店の中のウィンドウの中の大事なカメラが無くなっている、というようなことで、空き巣に入られてしまったことに気づきました。警察に届けたのですが、それからというもの、お休みする時には、一切張り紙とかなしないようにしました。休む時には、両隣に留守にしますのでお願いしますと言うなど、自分でそれぞれ考えていかななくてはならないのですが、地域ぐるみで防犯にも注意しなくちゃいけないという住み良いまちづくりの提言でございます。

次に生活環境の整備の話に参ります。これは、魅力がある、美しい景観がある街路樹を増やして頂いて、きれいなまちにしてほしい。それから、定期的にそれを剪定して、運転する方などが見通しの良い安全を確保していかなくてはいけないと思いますが、区民参加で花のあるまちづくりも進めていければ良いのではないかと思います。次にゴミの対策。これは本当に主婦としては切実なゴミ問題です。できるだけ、午後の収集もあるのですが、午前中に行ってほしい。できれば、ゴミを減量化するように、ゴミ箱なども設置したらどうなのだろう。区で助成していただいて、コンポストを設置して、ゴミの減量化なども図ったらどうなのだろう。ゴミの分別を更に細分化して、ゴミを減量化する必要もあるのではないかと。例えば名古屋市はすごく細かく分別しているそうで、ゴミの量がだいぶ減ったというようなニュースを、この間、NHK でやっておりました。そういったものを研究し、もっと細かく分別する必要があるのではないかとというようなことを、皆さんで話し合いました。

後は、また色々ございますが、自転車の対策として駐輪場を整備してほしい。シルバー人材センターの方が、沢山最近お見かけしますが、そういう方にも取り締まりの権限を与えたほうが良いのではないかと。また、協議会を設置して駐輪場の整備のあり方を検討する必要があるのではないかとというようなことを提言させていただきます。

以上、私たち萌黄の発表でございます。どうもありがとうございました。

【山吹グループ】

市川でございます。先日、中間発表の時に、まだ話し合いがされていなかった2項目がございましたので、まず、そこから話をしていきたいと思います。まだしていない2項目というのは、概要版の23ページをもとにして、話していきたいと思いますので、そこを開いてください。

あの後、話した項目というのは、この荒川区の目指すべき将来像が8つの項目からなっておりますが、その3つ目の障がい者福祉と5つ目の環境というところでございました。まず、障がい者福祉について話をしましたが、その右側に書かれているように、障がいの有無に関わらずということで、すべての区民が安心して暮らせるまちにしたいのです。この辺の議論で非常に難しい事に突き当たったのです。障がいの有無に関わらずということで、全く同じ構造で、全く同じ気持ちで、全く同じ幸せを感じるという事がどんなに難しいかということが話になりました。

私は先日、電車に乗りまして、非常に良い光景を見ました。若い人が電車に乗っておりまして、その前にお年寄りが立っていました。「どうぞ、おかけください」という光景は良く見えております。私がこの間見たのはそういう事ではなく、その人が黙って席を立ちました。そして、降りるのかと思ったら、降りないのです。そしてかなり離れた所で立っていました。お年よりはお礼も言わずに、普通の気持ちでそこに座りました。私はそれを見て、「これだ」と思いました。譲ったという気持ち、譲られたという気持ちがある以上は、障がい者あるいはお年寄りとはそうじゃない方が同じ気持ちにはなれないと思います。その若い人は本当に偉いと思います。「私は譲ったのではなくて、勝手に立ったのだ。空いている所に勝手に座れば良いではないか」というような感覚です。この感覚が、非常に大切です。私はある本でこういう話を読みました。「今、日本にボランティアや奉仕という言葉が、ちまたに氾濫している以上は、良い世の中にならない。ボランティアというのは、余裕がある人が、余裕のない人に手を差し伸べて奉仕をすることである。そんな気持ちならば、常にやってもらう人は、精神的に、精神的な代価を払いながら、そのボランティアを受けなければならない。現在、ボランティアとか奉仕とかと言っている言葉がそうではなくて、普通の人が日常的な行動として、その行為が行われるようにならなければ、本当の福祉社会はできない」というのを読みました。私はこれだと思ったのです。その辺のところが充分理解しなければいけない。これは、やはり、区民全体、国民全体がそういう意識改革をし、助けてやるのではなくて、日常の行為として、それが行われる。そこにまでいかないと、本当の生活ができないのではないかと思います。



皆、安心して生活できるということ。最終的な目標は、受け売りではないのですが、ボランティア、奉仕という言葉が世の中から消えること。行われる事は全て普段の人が日常生活としてできる。それを実現するためにはどうしたら良いか、ということは非常に難しいところです。私はどんなに合理的に、どんなに皆が協力しても、10年かかると思います。原動力になるのは教育です。今、小学校1年生の生徒を、義務教育の9年間の間に、みっちり教え込み、体験させる。そういうことをして、義務教育を終えた子どもたちが、そういう気持ちになって学校を卒業する。そして社会人になる。そのためには、9年10年かかる訳です。教育というのは、どなたもご存知のように、今日言ったから、明日実現する。そんなものはありませんから。10年先、20年先を見通して、その実現のために頑張っていかなければならない。我々は頑張っていかなければならない。そう思っております。

二つ目に話をしたのが、環境についてです。私どもの方で、話題に出たのが、大気汚染とリサイクルの問題です。大気汚染の問題につきましては、小さい子ども達が健康を損ねるような状態に、今はある訳です。昔と比べれば、かなり良くなっているとは言いながら、現在でも、そのための病気になっている子がいます。それを無くすためにはどうしたら良いか、これは、一人ひとりが、自分だけが良ければ良いのではなくて、みんな一緒に住んでいるんだ。一人ひとりが勝手に生きているのではなくて、荒川区民、あるいは、東京都民が一つの家族なのだ。自分のために、他の人が迷惑を被ったならば、それは全体の不幸なのだ。そういう気持ちがなければ、とても実現する問題ではありません。

最近のいくつかの大きな事件で、自分だけ良ければ良いのだ、他の人に迷惑をかけても金が儲けられれば良いのだ、自分が良ければインチキをしても見つかるまで頑張れば良いのだ。そういう気持ちが出ていますが、これは、法律だとか法令だとか警察の力では、どうすることもできない問題だと思います。やはり一人ひとりの心が、自分だけではない、皆で幸せにならなければならない、という気持ちがなければ、実現する問題ではありません。どんなに警察が厳しく取り締まっても、抜け道を考える者が出てきます。心がそうになっている以上は、どんなことをしても防止できません。一人ひとりの気持ちを変えていく意識改革が必要である、という結論に達しました。

そのような意味でその2つで8つの項目の話をしたのですが、今までの流れをずっと見ていますと、やはり一つひとつ全部の項目に意識改革という言葉がどうしても繋がってきます。例えば、先日、中間発表で話したように、荒川区では区役所の来た人に対して、なるべく親切にしよう、できるだけ温かく迎えよう、できるだけ便宜を図ろう、と思っているのにも関わらず、区民からはお役所は不親切だ、といった話をちらほら聞きます。一生懸命努力している、また、実現しているにも関わらず、そういうことが聞かれるのです。それはきっと、お役所の人是一生懸命やっている。ただ、それが、行政意識でそれを行っているからだと思うのです。行政に携わって、専門化してしまいますと、専門家の常識、これが全体の常識だと思い違いしてしまうのです。私も職業に就いていた頃は、私の職業に関する常識、これが世間の常識だと思っていました。ところが、実際はそうではない。自分が専門家になればなるほど、常識の範囲は変わっていきます。区役所の方が、一生懸命住民のために考えて、一生懸命実行している。それが、区民に対してどれだけ伝わっているか、それは、今の意識で

はだめで、やはり、一人ひとりが、区役所を利用する庶民の意識に立ち帰り、我々はこれが良いと思うけれども、庶民はどうなのだろう、ここに来る人はどうなのだろう。それを考えた上で、やっていけば今の努力がさらに報われると思います。一生懸命努力をしているのに、やはり、かなりの人が不満を持っているということは、その辺の所にあるのではないかと、思っております。

そうすると、ここでも、お役所の意識改革、一般庶民の意識改革、また、庶民もお役所がこれだけ一生懸命やっているのだということを考えるような、そのヒントを与えてくれるとか、それをPRするとか、その辺の所も、不足しているのではないかと思います。そのために、それぞれの努力がわからない。それぞれの努力がわからないということは、非常に不幸なことであります。努力が空回りしている。それが無いようにするためには今のままではだめで、意識改革をして、荒川区の人間、皆、家族なのだ。自分の子どもは怪我すれば、大変な心配をしますけれども、300メートル離れた荒川区民の人がころんだって、ああ、そうですかで済んでしまいます。その気持ちが無くなれば、本当に良い区が出来るかと思いますが、これを実現するのは至難の業です。一人ひとり、皆、考え方が違いますし、自分の家族に良い思いをさせたいと思います。それは自然の成り行きです。それと荒川区全体を考える。この辺の意識の折り合いをしなければいけないと思います。そういう気持ち、荒川区は、私達はみんな家族なのだ、ということはやはり子どものときから学校が中心になって、そういう意識を植え付けることが必要です。今、学校では基礎学力をつけることに加え、色々な教育をしなくてはなりません。基礎学力、学力の向上について、非常に取り上げられていますが、今、話したような心の教育を重視することによって、私は基礎学力を身につける以上に、(基礎学力をつけることが決して軽いことだとは思っていませんが)、皆が助け合って、気持ち良く、生活できるといったことが、10年先20年先、実現することを目指して、子ども達がそういう思いで、楽しく生活できるようなお膳立てをしてやる。また、実行に移してやる。それが、我々、年寄りの務めではないか。そういうことを考えております。

中間発表でお話しましたが、若い者が犯罪やいろんな怠惰に走る。それも学校教育。ここで、本当に見直していかなければならないのではないかと。昨年あたりから、ゆとりのある教育から基礎学力の向上と指示が変わっているようですが、そのような変わり方ではなく教育というのは社会の一員として充分な働きができる人間をつくる、それが教育の第一目標である。そのためには、学校・家庭・お役所・地域、全ての人がその気持ちにならないとこれは改革はできません。特に、最近のゆるんだ教育、これが私どものグループでも大変問題になりました。あまりにも厳しさがなさすぎる。我慢ができない。嫌な授業なら受けなくて良いだろう。学校に行きたくなければ行かなければ良いだろう。その辺の所からですね。全部が全部ではないと思いますが、今、問題になっているニートだとか、働きたくなければ働かなくて良いとかいったことに、つながる心配があるのではないかと、思っております。

5. 区長挨拶

大変長時間に渡って熱心な提言を発表して頂き、ありがとうございました。

今日まとめて頂きました提言は、私どもが既に平成 18 年度予算で実施しようとしているものもございますし、なるほど、こういう視点で荒川区の経営をしていかななくてはならないな、というようなご示唆に富んだものもたくさんございます。また、法令上、率直に言ってそれは無理だというものもございます。



しかし、その気持ちを何らかの形で生かしていこうということは可能だろうと思っております。本日、脇で条例部長たちが拝聴しております。条例部長とは、荒川区の条例上、荒川区のそれぞれのセクションの最高責任者のことであり、本日は、彼女、彼らを可能な限り出席させております。今後、この区政改革懇談会で出された意見を、この部長たちがそれぞれ自身への指導として受けとめ、きちっとやっていくことは当然のことです。

さらに、この会の特徴でありますのは、ここでまとめて頂いた提言を活かしていくため、櫻井善忠座長に、この会を代表して、荒川区の憲法づくりの場とも言える基本構想審議会に委員として加わって頂くということがございます。

基本構想審議会では、行政経験者や、いわゆる専門知識を有しておられる方々、また、国の役人であられた方々等にお入りを頂き、一年をかけて議論をして頂き、一つの提案ができあがる予定です。そして、平成 19 年の第 1 回定例会に出され、そこでの議会の議決を受けた上で基本構想が完成する予定です。つまり、今から 1 年後に皆様のご協議の成果が櫻井委員を通じて、また、行政を通じて、しっかりとできあがっていくのであります。

また、懇談会での提言の全項目が採用されるかどうかは、皆様の長い経験でご理解いただけたと思いますが、今日までの議論、今日までの協議を荒川区の将来に反映させていくものです。この会は、形式的なもの、俗に言う区民の皆様の不満を低減するために設置するという浅薄な考えで発したものではありません、というものであることをご理解頂きたいと思えます。

なお、本会は基本構想に対する提言の部はこれで終了させていただきますが、その後はテーマごとの研究ということになります。それぞれのテーマを行政やコンサルタントと相談していただき、引き続き、区に対する提言の場としてこの場を活用して頂ければと存じます。色々と仕事のご都合などで、ご参加いただけないこともあるかもしれません。しかし、ご自身が続けて良いと思う方々には是非残って頂き、引き続きご協力を頂きたいとお願いを申し上げます。

私どもは先日マスコミに、予算についての目玉の 30 項目を発表しました。しかし、この場で先ほども火災報知器等についてご評価を頂きましたが、1 点だけ申し上げておきたいことがあります。それは政策評価を本格的に荒川区に導入したいと思っているということです。それは基本構想を立ち上げる平成 19 年にかけて、つまり、平成 18 年の 4 月 1 日から平成 19

年3月31日までは、1,200項目というかなりの多くの項目につきまして、監査法人トーマツという大変著名な力のあるコンサルティンググループに、公費を持ってご依頼をしまして、全ての今日来ている部長が所管をしている課長など、ともども職員が一緒になってトレーニングを積み、18年度から本格的な政策評価を行うといったことであります。

政策評価は言うまでもなく、1単位の公的資金の投入によって、どれだけの予想していた成果が上がるか、または相反する結果が出るか、または思わぬそれ以上の成果が上がるかなど、極めて合理的、科学的に評価をしていくものであります。

しかし、一般企業のように経営の成果としての利益を上げるというのは出来かねる組織でありますので、なかなか成果をあげるのは難しいというのが区役所組織でございます。ですが、私どもはこれについてできるだけ正確な区の姿を、逐次広報して参りたいと思っております。

ついでに申しますと、広報活動は、この度東京23区の全てにわたって第1等という評価を頂きました。品川区が特賞ということなので実質第2位であります。評価としては第1等ということになりましたのでご報告をさせていただきます。また、子ども区報については他の追随がありませんので、自己評価ではございますが、単独1等であります。

そのようなことを行いながら今、序々に行政改革を行っております。かつて藤枝区長の時の職員は約2,300人でしたが、私の代になりまして1,600人台となり、約700人削減することができたということになります。

そして、私が区長になって、30人、20数人と国の削減率を上回るスピード、つまり国がモデルとして自治体に示しているものさしをはるかに上回る勢いで人減らしが進んでおります。これだけの行政サービスを行うのに、どれくらいの人数が必要なのか、今居る人数が十分なのか、過剰なのか、ということを経営もまだ検証しておりません。私どもは行政評価システムを遂行する過程の中で、どれだけ正確にそれが出せるかはわかりませんが、できるだけそのようなことを考えつつ、皆様から頂戴する税が無駄に使われないように、きちっと経営を公開の元で行なっていきたいと思っております。

これから区政に課せられた課題は色々ございます。財政を強化せよ、というご提言もその通りであります。今後は、公的なものの保険料、例えば、介護保険や国民健康保険の保険料などについてもどうしても増額せざるを得ない状況にあります。これらにつきましてもどう対処していくかを考えなければならないと思っております。それぞれの部局で工夫をこらしております、それぞれのことが充分にできるようにしっかりやっつけようと思っております。

今日と前回出席をさせて頂きまして、中間とりまとめ、提言報告を頂きましたが、決してお世辞やおもねりではなく、故郷荒川を思う気持ちを大切にいただき、これだけ優れたレベルの議論を熱心にして頂きましたことは、大変心強く思います。私はそちら側に座っている行政の者とは生まれも育ちも違ひまして、民間の厳しい選択の中で10回の選挙を経験し、運良く勝ち越してはおりますが、当選も落選も経験しております。今は区の代表に就いておりますが、皆様が私の後ろに居ていただいて、きちっとした故郷づくりができるようお力添えをお願いしたいと思っております。

一万人の人口が増えた荒川区、その勢いをこれからも持続していきたいと思っております。大変長い時間作業を重ねて頂きました。今日もせっかくの休日を潰してまでおこしになって頂いたことに、荒川区の行政を代表して心からお礼を申し上げ、ゆめゆめ皆様の努力を無にしないように努力をして参りますことを誓い申し上げ、せめてそれが感謝の気持ちとして表せるように、みなさまの故郷の良き先達として還元できるように努力することを、くどくなりましたが、何度も表明をさせて頂きましてご挨拶とさせて頂きたいと思えます。

今日は非常に寒い日となっており、このような日がこれから三寒四温で来ると思いますが、十分健康にお気をつけて頂きたいと思えます。皆様のご健康とご発展がありますようお祈り申し上げて、一区切りのご挨拶とさせて頂きます。どうもありがとうございました。

6. 閉会

事務局より閉会宣言